

2021年活動スローガン「^{はばた}輝け 翔け 世界の子供たち 未来に向かって」

報 告

2021年1月～3月支援分

〈バングラデシュ〉

●トイレ寄付

・会員有志の方よりカパシア郡の学校にトイレを2基

●その他の寄付

・会員有志の方よりエンゼルホーム守衛宿舍の修繕費

〈国内活動〉

●チャリティバザーにご協力ありがとうございました

4月7日にボランティアセンターで春のチャリティバザーを開催いたしました。当日ご来場いただいた方及びお手伝いの方には感染症対策にご協力いただきありがとうございます。またバザー開催の為に事前準備にお手伝いいただいた方、そしてバザーの品物を提供してくださった多くの方のおかげで無事バザーを開催することができました。ご協力ありがとうございました。

イベント情報

6/6
(日)

楽しいボランティアひろば

場所: 本協会ボランティアセンター (伊丹市)

時間: 10:00～15:00

内容: バングラデシュ体験、
手芸品・ノクシカタ製品販売
など



●チャリティバザーにご協力ください●

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、シーツ、タオル、衣料、食料品、石鹸、カバン、おもちゃなどいつでも受け付けています。ご近所でしたら引き取りに伺います。事務所までご連絡下さい。

☆取り扱っていないもの☆ 家具、電化製品、自転車、使用済み食器等

お願い

ご家庭に眠っている未使用の切手やハガキ等ございましたら是非ご寄付ください。いただきました切手やハガキは当協会運営の一部に充てさせていただきます。

編集後記

最近コロナの影響で屋内を避けた遊び、キャンプ、釣り、登山などが流行っています。新しい人が参入することは良いのですが、その分マナーの悪化、特にゴミ問題が目立ってしまいます。電波の入らない山奥で見かけるコンビニおにぎりのゴミは、本当に悲しくなってしまいます。私も、誰も見ていない時にこそ自らを戒めていきたいと思っています。

2021年 行事予定

4月現在

4月	17日(土)	チャリティバザー	スーパーニシヤマ有野店	神戸市
	25日(日)	ノクシカタ販売	イオン高砂店	高砂市
5月	5日(水)	チャリティバザー	西宮神社	西宮市
	8日(土)	チャリティバザー	JR六甲道南公園	神戸市
	14日(金)	チャリティバザー	須磨パティオ	神戸市
	30日(日)	チャリティバザー	イオン高砂店	高砂市
6月	6日(日)	楽しいボランティアひろば	本協会ボランティアセンター	伊丹市
10月	20日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
12月	19日(日)	チャリティコンサート	伊丹アイフォニックホール	伊丹市

※行事予定はホームページ上にも掲載、随時更新しています。

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円

特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替
でお送り下さい。

郵便自動払込方法も受付けています。

郵便振替・口座番号
01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力
もよろしくお願いします。

会員数: 一般会員 675名

DCEF会員 651名

(4月1日現在)

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



特定非営利活動法人

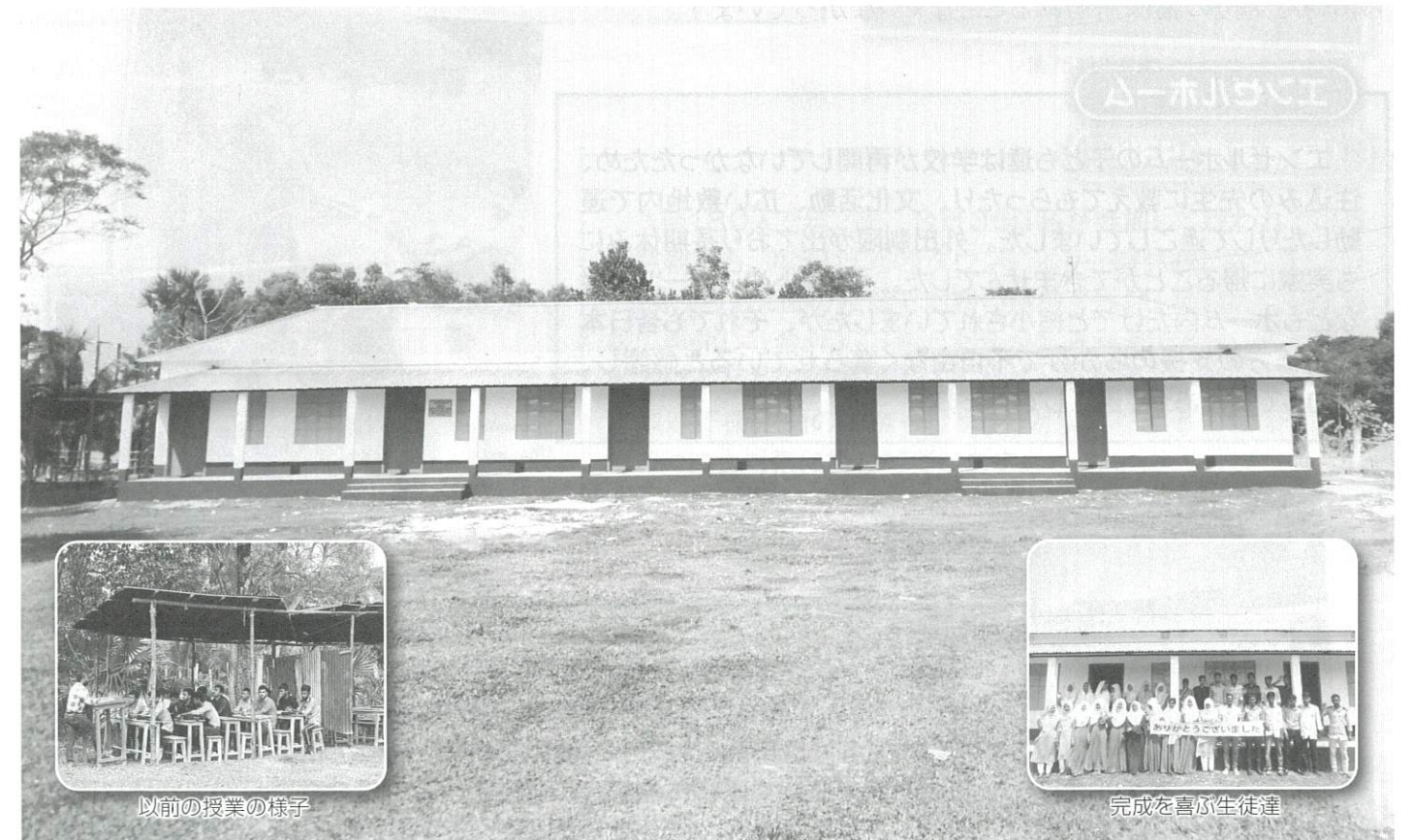
国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp

ANGEL NEWS

通巻195号
2021.04

- ① バングラデシュ報告
- ② バングラデシュ支援35年応援メッセージ第2弾
- ③ 令和2年度活動報告



以前の授業の様子

完成を喜ぶ生徒達

寄付により建設された校舎(ファイズウディン・ショルカ・ユニバーサルカレッジ)

一昨年の夏に、京都の山奥で廃校になった小学校校舎を活用したロッジに泊まったことがありました。木造の校舎はとて広くて趣があり、子ども達が楽しく過ごしたのであろう思い出がいっぱい詰まっていた。この学校は子どもの減少により1999年に統廃合され、廃校となったようです。

日本の田舎では少子化により使われなくなった学校が増えている一方、バングラデシュの農村部では学校校舎が足りていません。一昔前の農村では、子ども達は学校に行かずに家の仕事を手伝っていました。しかし今は親御さん達も学ぶことの大切さを認識しており、子ども達を学校に行かせるようになりました。その為、今では学校校舎が慢性的に不足するようになっています。学校校舎の建設には多くの費用が必要となり、農村部の学校には校舎を建て増すための経済的な余裕がありません。今でも窓のない土壁の校舎や、壁もなく打ち込んだ杭にトタン屋根だけを付けた学校で、将来の夢のために勉強している子ども達がたくさんいます。

国際エンゼル協会では学校校舎建設の寄付をくださる方を募集しており、昨年まででバングラデシュには69校の校舎を建設しました。そして今年の2月、70校目の校舎が会員の山下様のご寄付により完成いたしました。雨風や暑さを気にすることなく勉強に励むことができるようになったと、学生達はこの度のご寄付に心より感謝しています。いつか彼らが、今度は困っている多くの人の為に行動できる大人に成長してくれることを願っています。

スタッフ 東村 良平

バングラデシュ 報告

～バングラデシュ現地プロジェクトの様子～

昨年新型コロナウイルスの影響で何もかもが変わってしまった一年でした。バングラデシュでも一時はエンゼルホームを除く全てのプロジェクトを休止することになってしまいました。日本と違って人口密度も高く、医療体制も脆弱なバングラデシュではなかなかプロジェクトを再開することができませんでしたが、現在ではスタッフ達の努力もあり、感染症対策を施して全てのプロジェクトを再開しています。現在も皆様から頂いた支援の輪は途切れることなくつながっています。

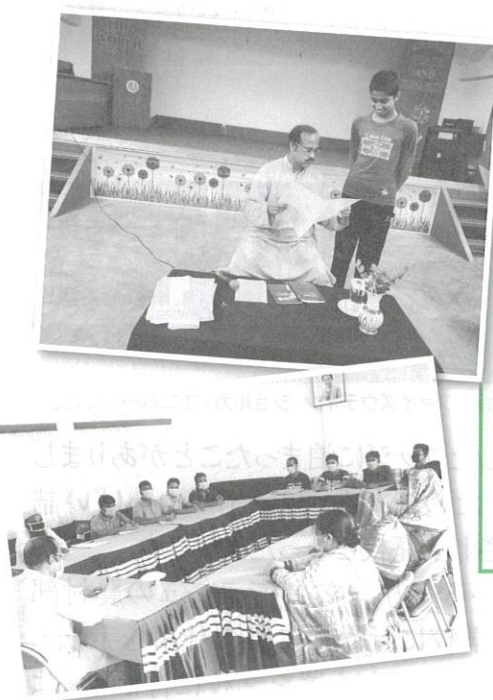
エンゼルホーム

エンゼルホームの子ども達は学校が再開していなかったため、住込みの先生に教えてもらったり、文化活動、広い敷地内で運動したりして過ごしていました。外出制限が出ており長期休みにも実家に帰ることができませんでした。イベントやスポーツ大会などもホーム内だけでと縮小されていましたが、それでも皆日本の皆様方の支援のおかげで不自由なく暮らせていると感謝し、協力して支えあって過ごしています。



YURIKOエンゼルスクール

バングラデシュでは2020年3月26日より全土でロックダウンが行われ、学校も休校となりました。休校中は先生方が授業プリントを作って各家庭に配布したり、電話での様子伺い、相談を行っていました。期末試験も同様に各家庭に届けて、自宅での試験、後日回収に回り採点するなど、在宅授業の方法を工夫していました。2021年3月現在、未だ学校は再開されていません。今後、学校が再開した際には多くの学生への支援が必要になります。経済的な理由で学生達が学校をやめてしまう事が無いよう YURIKOエンゼルスクールへの支援を続けていきたいと思っています。



DCEF奨学金支給

ロックダウン中はスタッフも身動きがとれず、奨学金支給もできていませんでした。解除後も人が集まることはできないので支給プログラムはできませんでしたが、ネット送金を利用して奨学金を届けていました。学生達は「在宅勉強で参考書の購入費用などが増えてしまっており、奨学金がとても助けになりました」と、日本からの支援にとっても感謝しています。



TTC(職業訓練所)

2020年1月から実施していた74期はロックダウンする3月末までに終わっていましたが、その後は9月まで休止となりました。10月からは遠方の生徒が住込みで、敷地内からの外出を制限するといった感染症対策をして実施しました。今年の1月からは手洗いマスク検温などの対策を行い、通いの生徒も受け入れて実施しています。



第75期生卒業式

WEP(識字教室)

1期180人で年2回、合計360名が参加して行われている識字教室も、去年はロックダウンにより一時休校となりました。10月から週2回の授業で前期の途中で休校していた生徒を対象に再開し、合計173名の女性が無事卒業できました。農村部では子どもの頃学校に通えなかったお母さん方も多く、識字教室で衛生面の知識もしっかりと学んで、その知識を家庭でのコロナ対策に役立てています。



開催方法を検討する先生達

HCC(クリニック)

ロックダウン後休館していたクリニックも10月より再開しました。敷地入り口での検温、手洗いマスクの着用、待合室の人数制限など、できる限りの対策を施しています。その為に必要な衛生用品もたくさんご寄付いただきました。

クリニックでは PCR検査等のコロナ関連の検査や治療はできませんが、地域の方々は通常の医療だけでもとても助かると再開を喜ばれています。



エンゼルホームの新しい子ども紹介

2021年1月から新しくエンゼルホームで生活することになった「ラジア スルタナ ロジョニ」ちゃんです。彼女は昨年までエンゼルホームの女の子担当の支援員さんだったムニさんの娘さんです。

ムニさんは父親の介護の為に実家に帰りましたが、自分が働けなくなるので家計が厳しくなったそうです。ラジアちゃんもお母さんが働いていたエンゼルホームなので不安も少なく、すぐに周り打ち解けて楽しく生活しているそうです。

ラジア・スルタナ・ロジョニ
学年=6年生
将来の夢=医者

私が初めてスタディツアーに参加したのは何年前だったでしょうか。水産研修センターでエビの養殖が行われていた頃だから20年以上前のことだと思います。フェリーでアムライド村に行くと、ノクシカタの研修を受けている女性達が私達を迎えてくれました。彼女達はとても物静かで、はにかんでいました。彼女達の年齢はわかりませんでしたが、何人かは既婚の方もいました。

それから2、3度バングラデシュを訪れる機会を得ましたが、その都度女性の雰囲気が変わってきていることに気が付きました。現地責任者のバリさんに「女性の雰囲気が変わりましたね」と声をかけると「変わった。明るくなった」と笑顔で返ってきました。経済的に自分の力で何らかの物を手に入れることができたり、読み書きができるようになって自信が出来てきたのでしょうか。バングラデシュの社会情勢もどんどん変化しているようですが、これからも彼女達にエールを送りたいと思います。

重森 和子



1999年から2005年のバングラデシュ駐在は、日本からの温かい支援がいかに実際に大勢の人の役に立っているかを実感させられる日々でした。児童養護施設エンゼルホームは、子ども達が「今度は受けた善意を社会に還元したい」と医者や先生を志す立派な社会人に成長する素晴らしい施設です。また、YURIKOエンゼルスクールは勉強だけでなく公共心や奉仕の心の教育を大切にする、バングラデシュではとても珍しい学校です。更に各地の学校に寄贈される校舎、トイレ、井戸は、生徒にも保護者にも安心できる学校環境を提供できています。

ひと際印象深いのは、インドとの国境近くの学校を訪れた際のことです。早朝からバス、フェリーを乗り継ぎ、最後はバイクで畑の畦道をガタガタ進み、ようやく到着したのは日も傾き始める頃。実際の距離以上に日本が遙か彼方に感じられる地で「国際エンゼル協会の奨学金のおかげで学校に通い続けられています」と生徒から感謝の言葉を聞いた時は「皆さんの善意がこんな遠くにも届いて喜ばれています！」とその場で報告したくてなりません。

今後も引き続き、距離を超えて現地と支援者の心がつながる素敵なバングラデシュ支援活動でありますように。

小川 勲



第2弾 バングラデシュ支援35年

2020年はバングラデシュ支援35周年の年で、多くの方々から応援メッセージをいただきました。今回も引き続き、応援メッセージを紹介させていただきます。バングラデシュの支援活動を長年続けて下さっている皆様にとって、現地での体験や出会いは、いつまでも輝きを放つ思い出となっているようです。皆様のあたたかいお気持ちを現地の支援を必要としている人々に、これからもしっかり届けていきたいと思います。

バングラデシュ15周年記念のツアーで川村百合子さんと佐藤初女さんと一緒に行かせていただいた時の事です。二人がエンゼルホームの中を散歩していると、その姿を子ども達が見つけて我先にと走って来て、二人の手を取って周りを囲みました。そしてベンチに座り「ふるさと」の歌を唄ったり、またベンガル語を教えてもらっている様子を私は眺めていました。子ども達は優しい二人がいることで、とても嬉しそうにいつもの倍くらいはしゃいでいました。エンゼルホームの中には癒しの空気が流れているようで、私はいつ行っても優しい気持ちで帰ってきます。そしてまた頑張ろうという気持ちになります。

宮本 啓子



1987年12月、初めてバングラデシュを訪問しました。同じ地球上にこんなに貧しい人々が生活しているという現実カルチャーショックを受けながら、当時ダッカにあったエンゼルホームに着きました。ホームにいる12人の子ども達はとても可愛く人懐っこくて、一緒に歌を唄ったり腕相撲して遊びながら「この子達が成人するまでサポートしたい」と思いました。そしてその思いをずっと忘れずにボランティアを続けてきました。今では「子ども達からたくさんの喜びをもらい、元気で楽しくボランティアができるのだ」と感謝しています。エンゼルホームから世の中に役立つ人材が育つことを願っています。

古川 真紀



お友達に誘われボランティアを始めた私です。最初の頃はセンターに山のように積み上げられた古着をひたすら整理整頓して途上国に送っていたのを思い出します。その後私の2人の子ども達がバングラデシュのワークキャンプに参加しました。バングラデシュの子ども達の目の輝きに感動し「恵まれた生活をしている日本の学生はみんな参加したらいいのに」と感想を話していました。あれからあっという間に35年が経ち、今現在仕事仲間の友達が「定年退職した主人と毎日ケンカしているのよ」と話しているのを聞いて、家族が私の活動に協力してくれている事に感謝しています。

目標に向かって仲間と共に楽しく過ごせる日々幸せをしみじみと感じている今日この頃です。

木村 志津江



コロナ禍直前の1月末にバングラデシュを訪問しました。初めて見るエンゼルホーム、YURIKOエンゼルスクールでの学習、運動会…35年の歴史と携わってこられた皆様の想いや労苦に触れ、ただただ感動しました。子ども達の言動にもその教えが浸透していて、心が澄んでいく気がしました。訪問時に、エンゼルホームの子ども達にベル演奏を教えました。子ども達はハンドベル奏者の熊原先生のベルレッスンでみるみる上達し、帰国前日に見た発表は本当に素晴らしいものでした。「シスター！」と言いながら明るく元気にパワーを与えてくれたバングラデシュの子ども達も、きっとまだ不便な生活を送っていると思います。でも、心ひとつにがんばって下さいね。また会える日を信じて応援しています！

在田 恭子



バングラデシュってどこにあるの？昔東パキスタンだったところ？と聞かれる事があります。そんな時、私もボランティアをしていなかったら、同じような質問をしているかもと想像します。

我が家では家族皆がバングラデシュのスタディツアー、ワークキャンプに参加し、共通話題の一つになっています。

これまでにバングラデシュより日本に招聘された何人かが我が家に来られました。カレーを作ってもらったり、手打ちうどんを作ったり、焼鳥屋に行ったことなど楽しい国際交流の思い出があります。バングラデシュ支援のボランティアをしながら自分の世界を広げてもらっています。ありがとうございます。

青木 信子

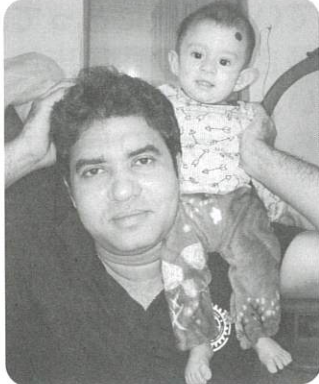


エンゼルホーム
卒業生の今～

イムラン・ホセイン君よりお便り

日本の国際エンゼル協会の皆様、こんにちは。日本に留学していた時は本当にお世話になりました。皆様のおかげで私は大分県にある立命館アジア太平洋大学(APU)で学ぶことができ、博士課程を修了して無事卒業することができました。その後帰国し、2017年1月よりダッカのユニバーシティ・オブ・リベラルアーツ・バングラデシュ (ULAB) 大学の教職員となることが出来ました。現在はこの大学で助教授をしています。ここでは学生達に経済学とビジネス研究、金融を教えています。しかし今は新型コロナウイルス感染防止のため、大学で授業を行うことが出来ずオンライン授業を行っています。早く以前のように生徒達に授業をしたり研究ができるようになることを祈っています。いつも優しくした皆様のことを心に思い出しながら私は毎日頑張っています。もうずいぶん前になりますが川村百合子さんから「人から親切にしていれば感謝の気持ちを忘れないでね。そして将来バングラデシュの人達のためになる仕事をして下さい」と言われました。そのことを心にとめてこれからも頑張りたいと思います。

私は妻とアナフという2歳の息子がいます。とても元気な男の子で私と家の中でよく遊んでいます。今は世界中が大変な時ですが、コロナウイルスが収束して皆様がバングラデシュに来ることが出来るようになったら、どうぞ私の子どもにも会ってください。その日が来るのを楽しみにしています。それでは日本の皆様、どうぞお元気でお過ごしください。またお会いしましょう。ありがとうございました。



イムラン君と息子のアナフ君

令和3年度 国際エンゼル協会 会員総会を開催

令和3年度定時会員総会が3月5日(火)に開催されました。令和2年度事業報告及び決算報告、令和3年度事業計画及び予算(案)、その他の議案が審議の結果、全会一致で承認されました。これからも皆様のご支援ご協力をよろしくお願い致します。

令和2年度活動報告 活動報告

バングラデシュ

■DCEF

農村部の学生3,005名、YURIKOエンゼルスクールの生徒延べ600名に奨学金供与

■トイレ(井戸付き)38基

(新型コロナウイルスの影響で完成は18基、総寄付数351基)



フィリピン

■「財団法人北ルソン比日基金」に奨学金基金として200万円を寄付

■その他の寄付

- ・エンゼルホーム、クリニックへの寄付
エアコン、運搬作業用一輪車2台、クリニック衛生用品、冷凍庫、寝具一式、自転車2台、パソコン(子ども達用1台、事務所用1台)、サッカーユニフォーム、図書149冊
- ・エンゼルホーム補修費
エンゼルホーム食堂内壁、子ども達の自習室の内壁、男子寮シャワートイレ室、エンゼルホーム外塀
- ・机とイス60セット /カパシア郡の6つの学校へ10セットずつ
- ・文具、マスク /カパシア郡の学生288人分
- ・図書222冊 /サンマニア中学校
- ・図書254冊 /UCEP(恵まれない子ども達の教育プログラム)

シエラレオネ

■宣教クララ修道会のシスター吉田様を通じてシエラレオネへの支援として10万円を寄付

令和2年度一般会計収支決算書		令和2年1月1日から令和2年12月31日まで	
収入の部		支出の部	
会費収入	16,492,500	社会教育活動事業支出	1,439,643
正会員会費収入	16,492,500	チャリティ活動費	356,781
国内活動寄付金	0	教育研修事業費	0
一般寄付金収入	0	国際交流事業費	1,082,862
指定寄付金収入	0	国際協力活動事業支出	43,912,212
社会教育活動事業収入	3,762,860	バングラデシュ活動事業費	41,812,212
チャリティ活動収入	2,762,660	職業訓練事業費	1,042,535
教育研修活動収入	0	教育援助事業費	16,391,074
国際交流事業収入	1,000,200	保健医療事業費	2,469,675
国際活動寄付金	50,080,989	孤児救済事業費	5,785,920
一般寄付金収入	7,101,557	現地管理費	8,723,617
教育援助寄付金収入	27,170,130	諸雑費	0
募金収入	15,809,302	開発協力費	4,515,818
青少年育成事業収入	532,800	エンゼルスクール事業費	2,883,573
青少年育成活動収入	532,800	途上国活動事業費	2,100,000
海外ツアー活動収入	0	青少年育成事業支出	460,527
災害救援活動事業収入	0	青少年育成活動費	460,527
募金寄付金収入	0	海外ツアー活動費	0
助成金収入	1,000,000	災害救援活動事業費	0
雑収入	64,073	災害救援活動費	0
受取利息	2,667	その他の事業支出	968,639
雑収入	61,406	広報活動費	968,639
財産運用益収入	15,964	事業費	8,076,469
特定預金取崩収入	0	人件費	8,076,469
		管理支出	6,226,647
		人件費	1,723,920
		事務管理費	4,395,232
		海外管理費	107,495
		特定預金支出	0
		発展途上国教育基金積立金	0
		国際協力活動事業積立金	0
		災害救援活動事業積立金	0
		事業運営基金積立金	0
		事業費	9,000,000
		人件費	9,000,000
当期収入合計	71,949,186	当期支出合計	61,084,137
前期繰越正味財産額	75,403,801	当期正味財産増減額	10,865,049
経理区分振替額(A)	△ 74,318	次期繰越収支差額	86,194,532

令和3年度一般会計収支予算書		令和3年1月1日から令和3年12月31日まで	
収入の部		支出の部	
会費収入	17,300,000	社会教育活動事業支出	6,100,000
正会員会費収入	17,300,000	チャリティ活動費	1,300,000
国内活動寄付金	600,000	教育研修事業費	30,000
一般寄付金収入	100,000	国際交流事業費	4,770,000
指定寄付金収入	500,000	国際協力活動事業支出	60,530,000
社会教育活動事業収入	16,050,000	バングラデシュ活動事業費	54,220,000
チャリティ活動収入	11,000,000	女性自立支援事業	1,700,000
教育研修事業収入	50,000	教育援助事業費	20,000,000
国際交流事業収入	5,000,000	保健医療事業費	100,000
国際活動寄付金	44,000,000	孤児救済事業費	9,000,000
一般寄付金収入	7,000,000	現地管理費	12,000,000
教育援助寄付金収入	28,000,000	諸雑費	120,000
募金収入	9,000,000	開発協力費	8,000,000
青少年育成事業収入	1,980,000	エンゼルスクール事業費	3,300,000
青少年育成活動収入	180,000	ノクシカタ事業費	3,810,000
海外ツアー活動収入	1,800,000	途上国活動事業費	2,500,000
災害救援活動事業収入	100,000	青少年育成事業支出	1,790,000
募金寄付金収入	100,000	青少年育成活動費	270,000
国際協力活動事業収入	7,000,000	海外ツアー活動費	1,520,000
ノクシカタ事業収入	7,000,000	災害救援活動事業費	100,000
助成金収入	1,000,000	災害救援活動費	100,000
雑収入	100,000	その他の事業支出	960,000
受取利息	10,000	広報活動費	960,000
雑収入	80,000	管理支出	9,700,000
書籍販売収入	10,000	人件費	1,950,000
財産運用益収入	50,000	事務管理費	6,430,000
特定預金取崩収入	0	海外管理費	1,320,000
		特定預金支出	0
		発展途上国教育基金積立金	0
		国際協力活動事業積立金	0
		災害救援活動事業積立金	0
		事業運営基金積立金	0
		事業費	9,000,000
		人件費	9,000,000
当期収入合計(A)	88,180,000	当期支出合計(C)	88,180,000
前期繰越正味財産額	85,950,440	当期正味財産増減額	0
		次期繰越正味財産額	85,950,440

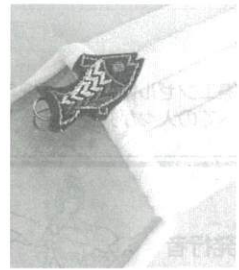
令和2年度特別会計収支決算書		令和2年1月1日から令和2年12月31日まで	
収入の部		支出の部	
ノクシカタ販売事業収入	5,336,193	ノクシカタ販売事業支出	277,053
ノクシカタ販売収入	5,336,193	製品販売事業支出	1,969,704
製品販売事業収入	1,920,000	棚卸減少額	1,969,704
石鹸販売収入	1,920,000	事業費	2,412,000
手芸品販売収入	0	人件費	2,412,000
書籍販売収入	0	管理支出	2,672,984
雑収入	1,230	人件費	439,720
受取利息	9	事務管理費	2,233,264
雑収入	1,221		
当期収入合計	7,257,423	当期支出合計	7,331,741
		当期収支差額(A)	△ 74,318

昨年11月20日に行われました臨時会員総会で可決されました。本年度より一般会計と特別会計を一つにまとめることとなりました。また、科目の変更、決算書及び予算書の書き方が一部変更されております。活動内容の変更はございません。ご不明な点がございましたらお気軽に国際エンゼル協会事務局までお問い合わせください。

ノクシカタ刺しゅう製品紹介

マスクにつけると、可愛いアクセサリーに。また、マスクを外し二つ折りにして服やカバンに挟めば紛失せず安心。その他色々な用途にお使いいただけます。

商品に関しては事務局までお問い合わせください。



●マスク用ミニピンチ●
(サイズ4cm×3cm 200円)